

母子相姦



んもっ！

しょうがない子ね……

いったいどこで
間違ってしまったのか

以前より教育は
親がするものという
価値観を持っていました

性教育についても
例外ではなく

年頃になる前に
きちんとした情報を
与えなければと思い

男女の体の違いや
性行為について少しづつ
教えていきました

そして時がたち、実際に
息子に一人で自慰を
やらせてみた時のこと…

シコ
シコ

そのまま
そのままよ

お母さん
なんかムズムズ
するよ

そう？
大丈夫だからね

うん…

シコ
シコ
シコ

ド
ド
ド


おう

あ、なんか出そう！
漏れちゃう…！


出ちゃうよ…！
うわっ…！




しかし
それからというもの




息子はなかなか
私の言うことを
聞いてくれません



ことあるごとに
自慰の手伝いを
せがんでくるように
なってしまう



夫に話しましたら
「そんなことはやめろ」
と言われたのですが



：それからも
私が優柔不断なせいで
夫に隠れてズルズルと
息子の手伝いを
続けてしまっていました

自分でも甘いと
わかってはいても

あれ？
お母さん
太った？

苦労して産んだ
たった一人の
息子は
かけがえのない
存在で

お母さん
忙しいんだから・

肝心なところで厳しく
突き放せなかったのです

やめなさい・

モ
モ
モ
モ
モ

息子も父親にバシたら
まずいとわかつている様子で

お母さん

んもう
この子は・

二人きりになった時だけ
しつこくボディタッチを
してきました

カ
カ
カ

そしてある日のこと
やけに息が荒いなど
思ったら

なあに？
うるさいわねえ

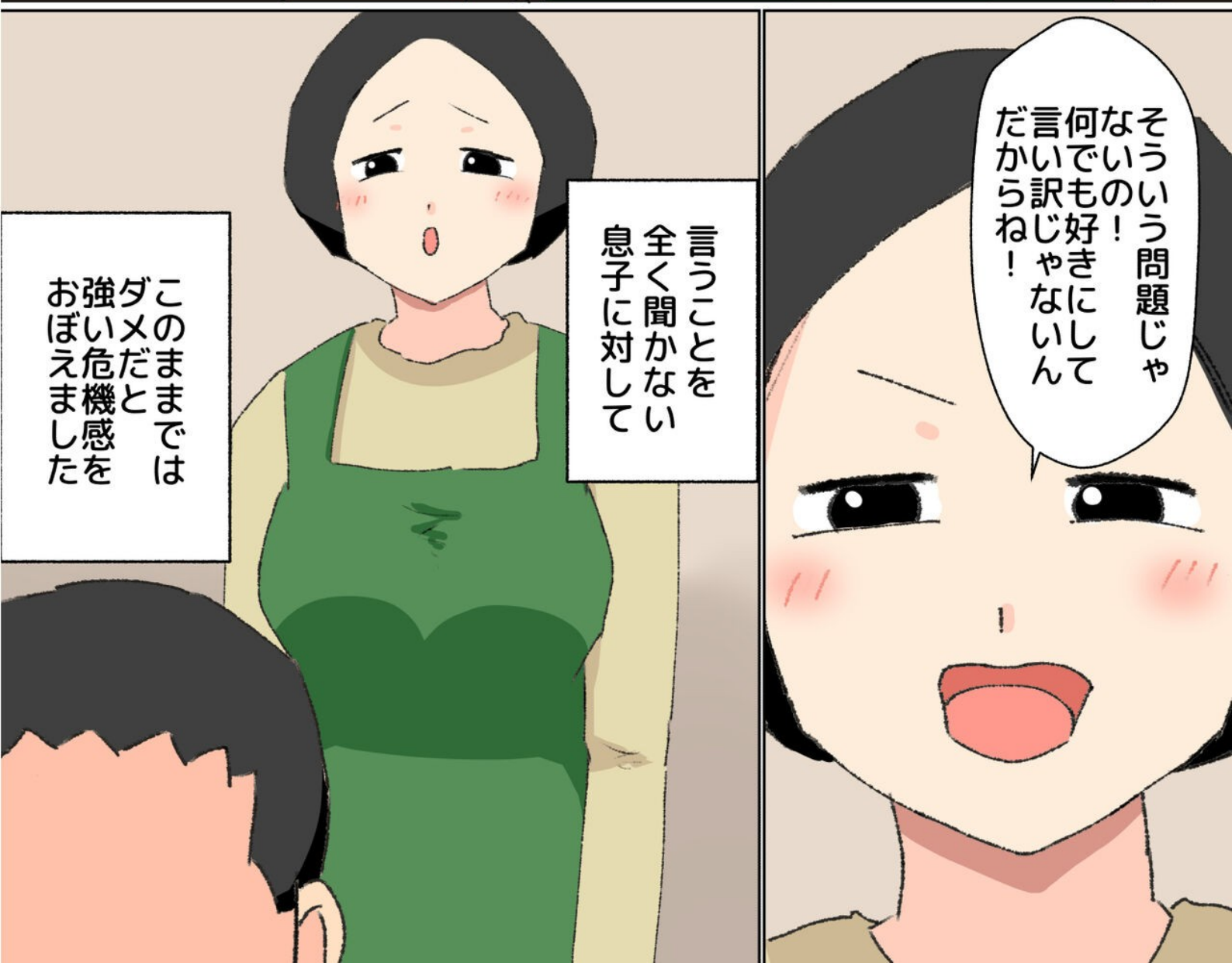
なんと私のお尻に
ちんちんをこすりつけて
射精していたのです

えっ!?



なんてことするの！
こんなに汚して！

洗えば大丈夫だよ
別に



そういう問題じゃ
ないの！
何でも好きに
言いかね！
だからね！

言うことを
全く聞かない
息子に対して

このままでは
ダメだと
強い危機感
をおぼえまし
た

後日

お母さんもう我慢出来ないわ

今日限りでこんなこと終わりにしましょう

え、何言ってるの？やだよ

もういい加減にやめましょ
：お父さんに
言います

は？まさか言うわけないじゃんお父さん怒るよ？

あんたをこのままに
しとくくらいなら
その方が良くいわよ

ちよつとねえ！
やめてよ、ね？
何でもするから…

もうお母さん決めたから
あんたの言うことなんて
聞かないわよ

わかったよ

あら、ずいぶん
素直ね

...

その代わり最後に
思い出作らせてよ

ズンズンズン...

フェラとか
まんこ触りたい...

な：

そんなことはダメと
言いかけてましたが
これで終わりに出来る

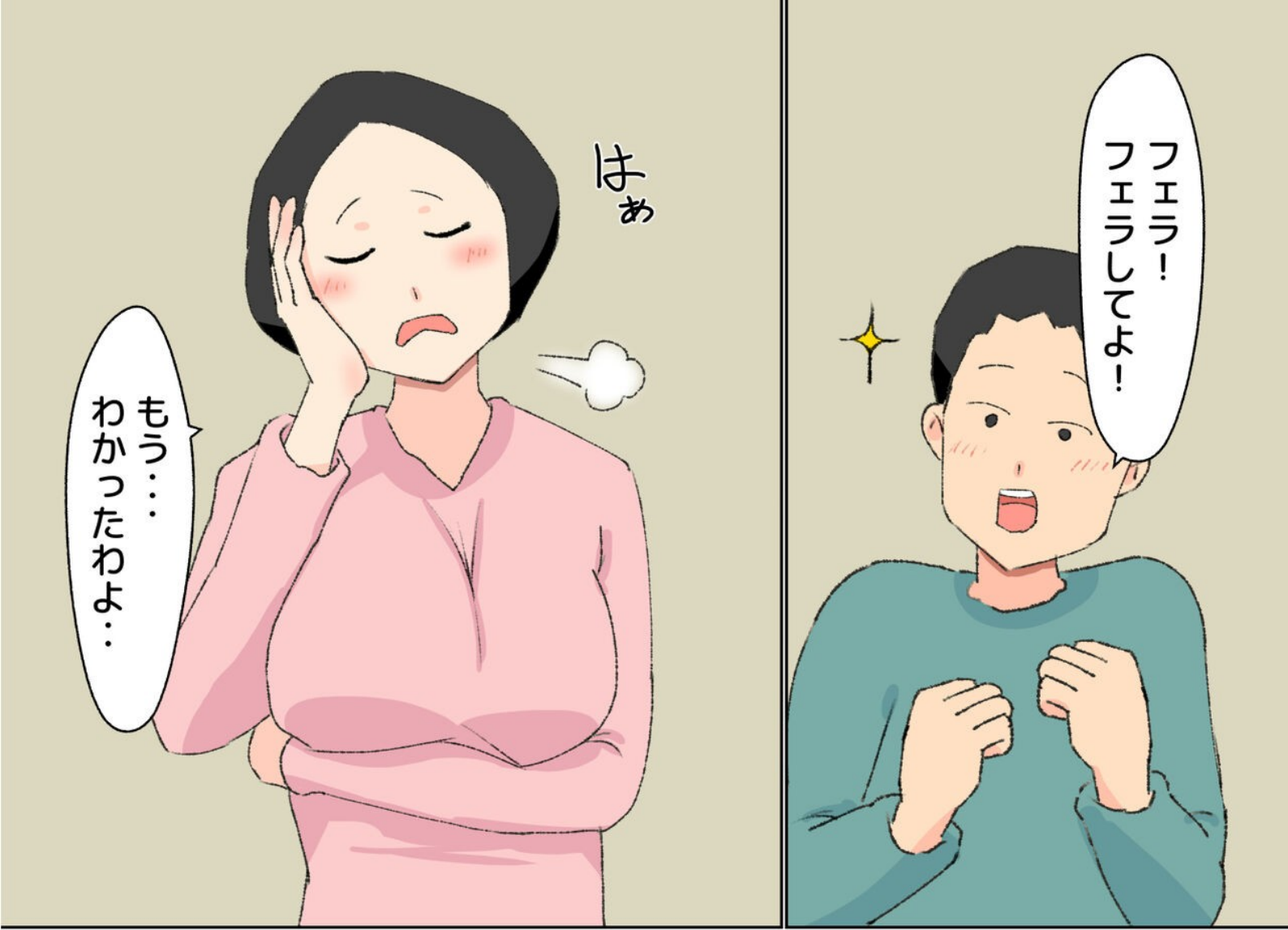
普通の親子のように
なってくれるかもしれない
という期待が勝り

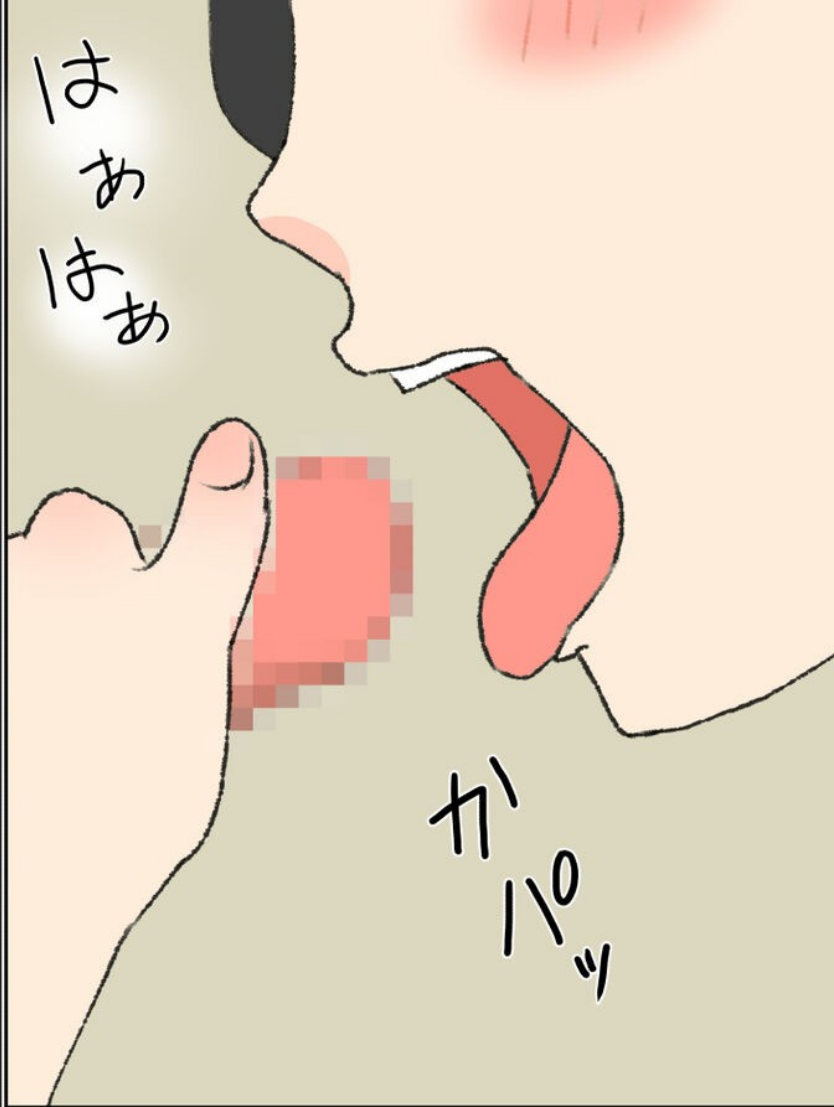


ほら、じゃあ
どうして欲しいの？

お母さん
忙しいんだからね！

少しだけという
条件付きで
許してしまいました





痛くしたら
ダメだからね

聞いているの？
わかったね？

へー、やっぱ
ビラビラ
してるんだね

めっちゃ
お母さんの
匂いするね「」

ニ
ン
ニ
ン

はあ

ほんと
どうしてこんな
エッチな子に
育っちゃったのかしら

男の子は
こんなもんなの
かしらね：



えっ！コラッ！
舐めるなんて
お母さん
聞いてないけど！

いいから
いいから



んっ！

あっ！

なんか：
気持ち良さが
変わって来た：



やだもう！
全くどこでこんなこと
覚えたのかしら

はあ

はあ

はあ

油断も隙も
あったもん
じゃないわね





ごちそうさまー

それから数週間
息子は全く求めて
こなくなりまして

安心というよりも
あまりの聞き分けの
良さに不信感を
抱いていました

タタタッ



息子らしくない
と...

ある日、息子の部屋を
掃除していた時のこと

まったくもう
すぐ散らかすん
だから！

んもう！

なんとなく
PCが目に留まり

中を覗いて
みました

するとそこには
エッチな動画が
これでもかと

数えきれないほど
ためこまれて
いたのです

何とも言えない
複雑な気持ちに
鼓動が早まりました

後日

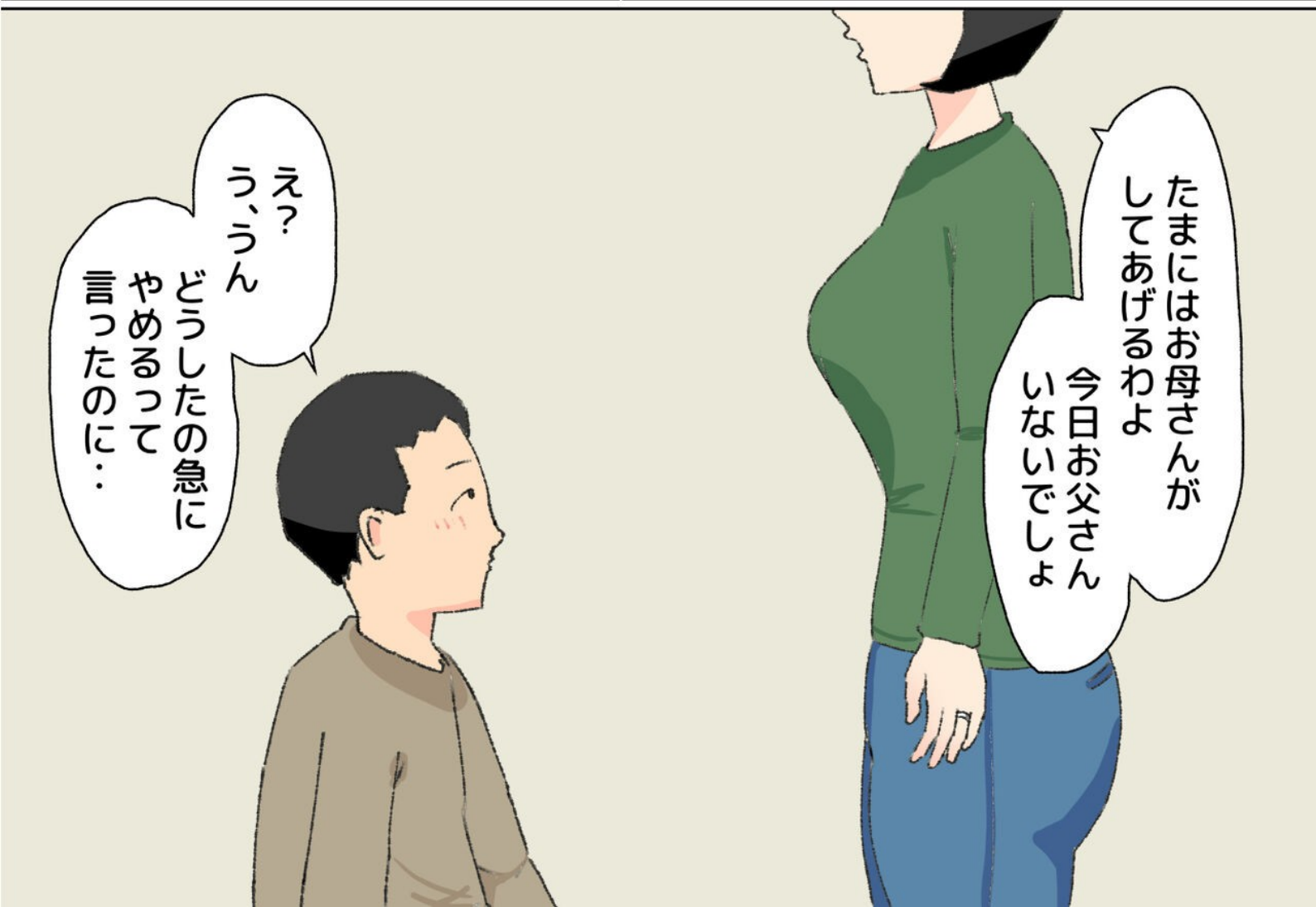
ごちそうさまー
先にお風呂
入っていいよー

忙しいー

うん
わかった

ヤイヤ

カイヤ





え
なになに？

いいから
横になりなさい

スルッ



もしかしたら
初めから欲求を
満たしたかったのは
私の方かもしれないと

一瞬頭を
よぎりましたが
すぐに否定し
閉じ込めました

お母さん温かい
お母さんの
匂いかぐと
安心するよ

あと興奮する



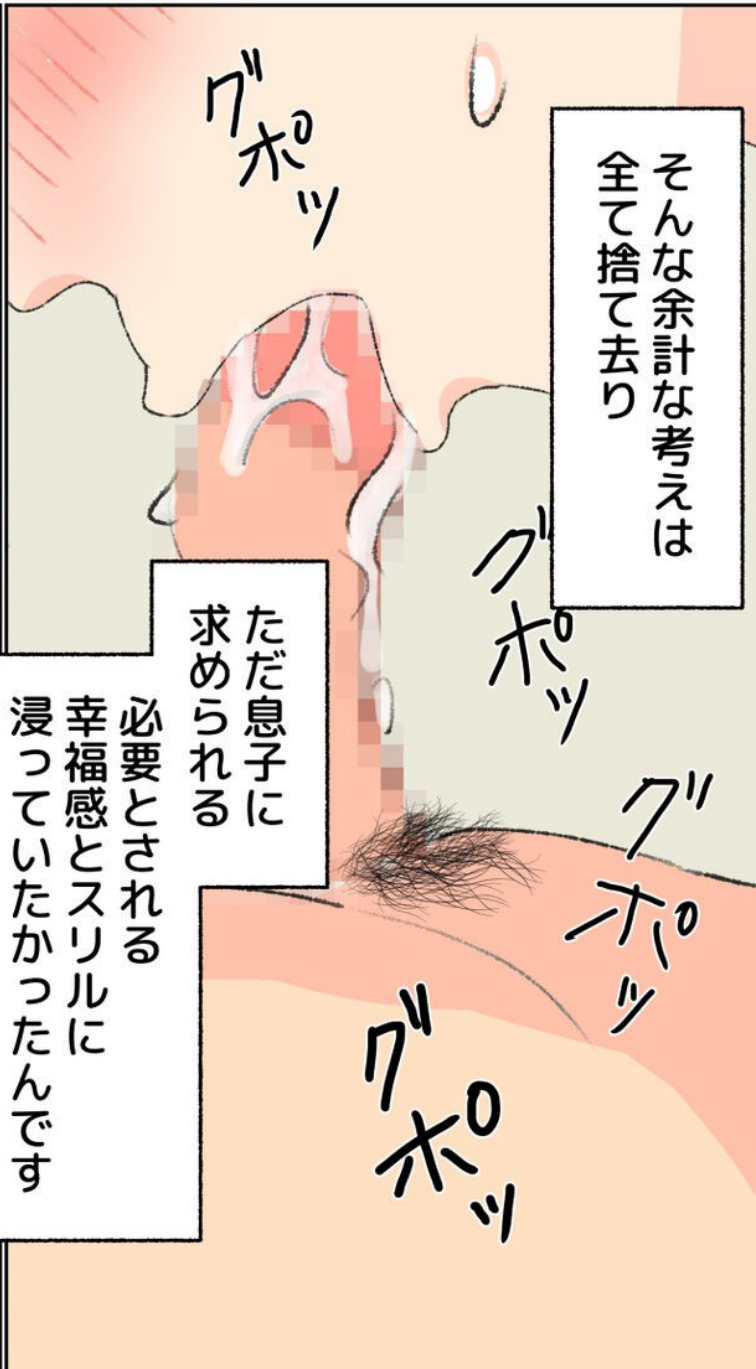
このままでは
まともな大人に
ならないんじゃ
ないかとか

結婚
出来ないんじゃ
ないかとか

夫にバシたら
どうしようとか



母親失格…



そんな余計な考えは
全て捨て去り

ただ息子に
求められる
必要とされる
幸福感とスリルに
浸っていたかっただんです



ううん...

ほ、ほんとに?
なんでも?



ズ
キュキュキュッ

はめっっっ...



わかる
でしょ?
ねゆっくろ

はめ
はめ
はめ
うん...



すごい
ヌルヌルしてる

お母さんの
まんこ！
ヌルヌル！



ゆ、ゆっくり
め

そう、上手ね

ズッ
ズッ



全部
入っちゃったよ
思ったより
深いんだね

そうね
入っちゃった
ね：

フッ
フッ



なんでこんな
あつたかいの？

お母さんの中
あつたかいよ

すっげ
気持ち良い！

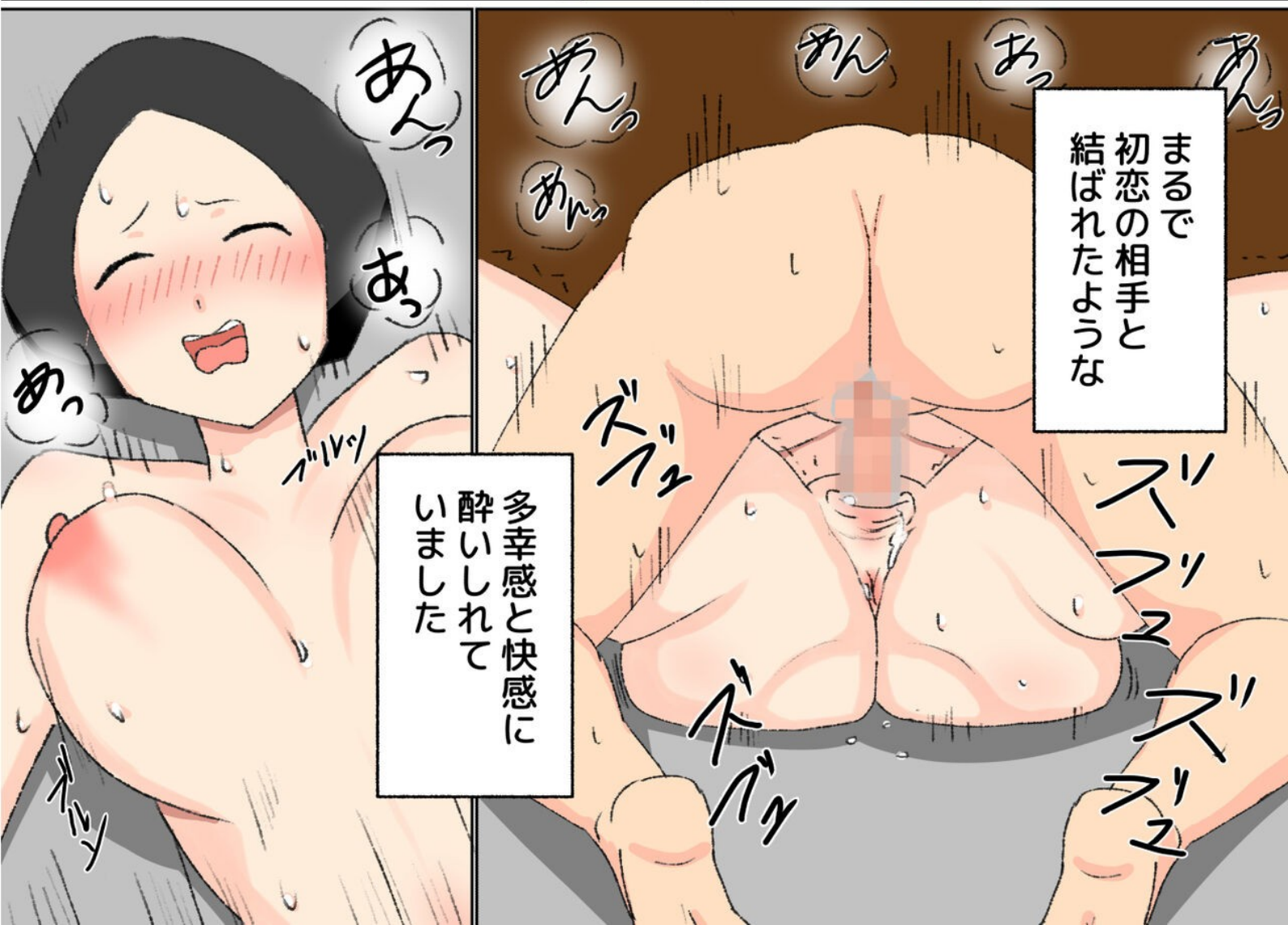
なにこれ
めっちゃ
気持ち良い！

息子を完全に
受け入れてしまった
罪悪感など
微塵もなく



まるで
初恋の相手と
結ばれたような

多幸感と快感に
酔いしれて
いました





お母さんのお尻
こんな
大きかったんだ

知らなかった
何でも知っていると
思ってたのに
全然違う体みたい

あん あん

あん

あ

あん

ズ
グ
ユ

ズ
グ
ユ

あん

ズ
グ
ユ

ズ
グ
ユ

ズ
グ
ユ

ズ
グ
ユ



もつとずつと
エロくて
食べたくなるような
体を感じる

はあ

はあ

はあ

はあ

ズ
グ
ユ

ズ
グ
ユ
ズ
グ
ユ
ズ
グ
ユ

はあ

はあ

あん

はあ

はあ

はあ

はあ



大丈夫よ
いいのよ
怖くないのよ...

ういの？
お母さんういの？







ちゅーっ



はあ

はあ

はあ

はあ

セックス
やばいね

めっちゃ
気持ち良い



ごめんね...

どうして
もっと早く
教えて
くれなかったの？



はあ

はあ

はあ

うん、すっごく
気持ち良かったね

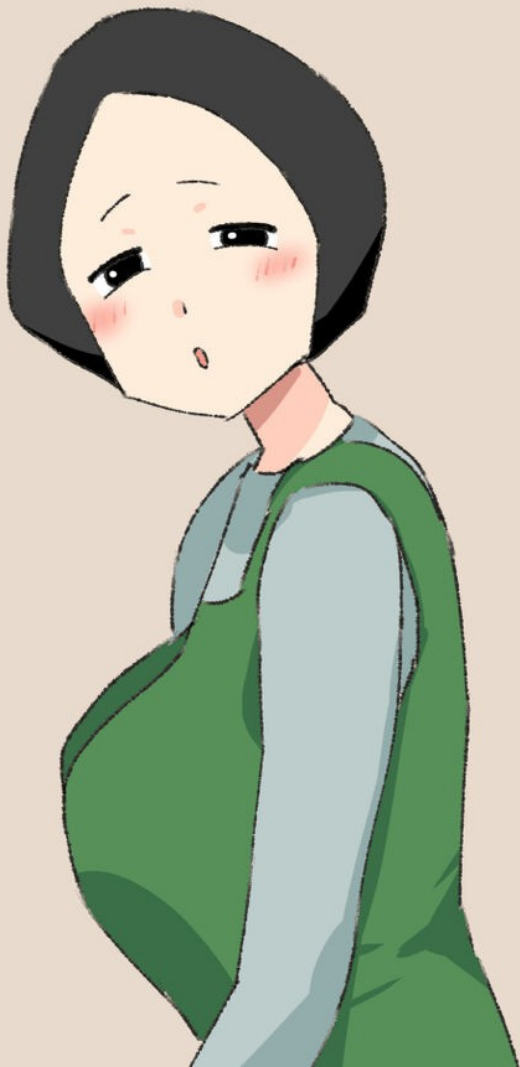
はあ

はあ

それからもう
止められませんでした

朝、夫が出勤
するやいなや

いって
らっしゃーい





セックス



早々に夕飯の支度を
済ませておき

息子が学校から
帰ってくる
とすぐにまた





あイクッ!!
あッイック!!



あッ!!
そこ!!
そこお!!

はあ はあ

はあ

はあ

はあ

あ~~~~!!
おっ!!おっ!!

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ



あッ!!

あああ!!

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

あッ!!



もはや完全に
理性を
失っていたのだと
思います



そして息子も
それに応えて
くれていました



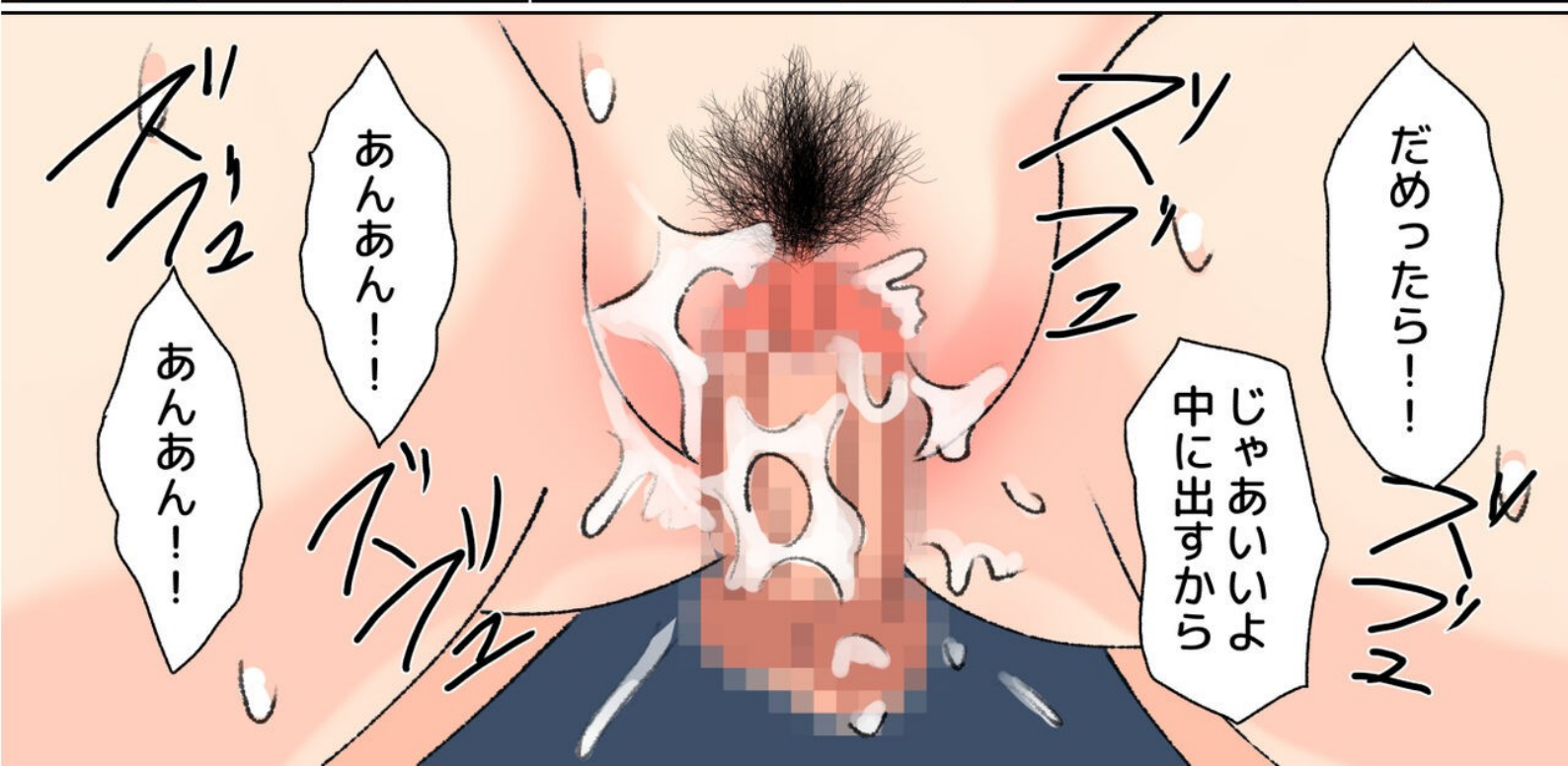
息子への愛情が
夫へのそれより
明らかに強く：



ねえお母さん
顔にかけていい？

ねえいいじゃん
ねえー

だめよ
またシャワー
浴びなきゃに
なっちゃうでしょー！



だめったらー！

じゃあいいよ
中に出すから

あんあん！

あんあん！

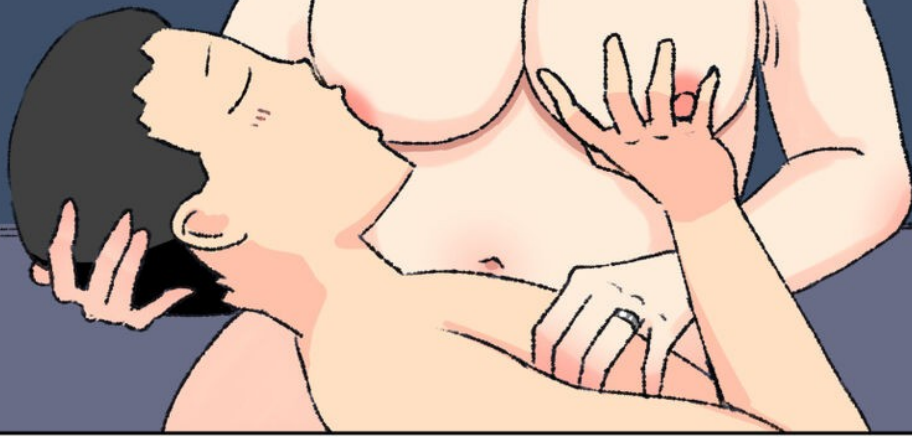




間違っていると
わかっていても

息子と通じ合えて
いることが

ただただ
この上ない
幸せでした



後悔なんて
ありません

母乳出れば
いいのにー



終わり



ありがとうございます♡

この物語はフィクションです。
登場する人物・団体・名称等は架空であり
実在のものとは関係ありません。